

1976.11.5

東京蜘蛛談話会

10月10日、八柱霊園での観察採集会には、以下の方々が参加し、ケボウアモをみつけ、そのこしかけや網などの観察をしたりして、盛会でした。詳細は、権田重雄氏(当日実行委員)によつて、KISHIDAIA誌上に紹介されます。

当日参加者(昼食時の自己紹介順)。  
高野伸二・高橋米夫・佐藤幸子・熊田豊一・梅林カ・新海栄一・田中理恵・松本誠治・古矢隆・高橋登・並木敏一・小澤康樹・笠原須磨生・石山鉄幸・嶋田順一・吉田貞元 下村和秀(敬称略)。

以上19名。

前日の雨はウソのように晴れど、格別の観察会日知で、ピーティングも(曇参の人には気がねしなからず)を果しました。ピーティングではネコアモが大分入りました。

10月12日の消印で、笠原氏より、上記観察採集会に参加された時の感想を寄せられましたので、ご紹介します。

「拝読、先日の採集観察会ではお世話になりました。…… 駅で降りるくに、待った下った真ん中を認め、生つたお師匠さん道であり、また友人ともなつた下つた方々でありとがわかりました。採集観察会は、これ等の念誌、通信等々を想像していた通り、実に好しい雰囲気、楽しい会でした。おかげで、大層勉強になりました。これからもうかよしくと、下つた。…… 通信誌全通信は、これにしようとして、KISHIDAIA誌

受取……あります。——後略——

通信の愛読者が一人でも増えたいのほうれいこととす。ほんとうに。

KISHIDAIAの編集担当者がNo.41から代りました。前担当者がドイツへ留学してしまつたので、No.41からは、すつにお知らせした通りに、熊田山、西氏に多忙中にもかかわらず、手数をかけてもらうことになりました。…… 地理的なこともあり、印刷所も変更するこゝになり、このために、KISHIDAIAの体裁や投稿規定が若干かわるようになるかもしれません。何か大幅にかわるかといへば、やはり、印刷費のほうです。これは、上記西氏と、田中理恵氏の努力で、印刷所を転得している最中です。

9月23日の運営委員会での討議承認された投稿規定は、印刷所にかねあひから、次のような方向のものとなります。全文は、追つてお知らせします。

- ・ 6頁以上(刷りエリ)になった場合は著者負担(従来通り)。(7頁目から)
- ・ 6頁以内でも、図版については、著者負担を考へる。

実際はあまり変わらないようだが、結局のところ、財政面での援助をいらいといふことである。思ひます。

KISHIDAIA No. 41

投稿募集

急募!!!

〒100 東京都千代田区千代田 3-3-3 丸の内ビルディング 3F 丸の内ビルディング 3F 丸の内ビルディング 3F

### クモヒナマズのけんか

むかしは田に水を当てるんに入れるのに井手(いのね=流水調節のせき)をこしらえて存あ。シバをずっと置いて、そこに石をいっばい置いて、そこから山の隙(きぬ)の水を引くように存あ。ほんで、むかしは存あ。井手ちゅうもんがようけいあったんですめ。

今はもうそんな所存あけれど、そこに存あ。クモが、くわあっと生え繁ったとこに、大生存大生存豊八枚敷きぐらいの大生存クモが、その井手の主で、そこに年若い主人じ、たんや。それから、またもう一つ下の井手に存あ。ナマズが子分をぞうと連れて大生存大生存ナマズが存あ、その井手の主であつたや。むかしの話で存あ、深い深いとこに、ナマズが手下あいっばい連れて住まいしとるなり、クモがクモで子分をいっばい連れて、奥の井手のがあつたかぶさつとるとこに、大生存た。

そのクモヒナマズとかが存あ、仲悪うてしゃあなくて(仕方存く)存あ、ほんで、その土地の争いおじよう存(おた存)もんや存あ。ほんでクモが細強って、下へちつとも水をやらんようにするや、存すと、下の方でナマズが水が無かつた、嘴中が浮くもんやけかいに、クモも退治せんたら自分らは、せんじり(次々に)ナマズは増えてくるなり、子が出来、子が出来して、しゃ存ちゅうこに存あ、とつとつそれらがけんかして、もうナマズの方が腕力が強いが、ほんでクモがとつとつ、もう負けるんに入存い存いで、けんかせん存らんこに存あ。ほんで「明日いよいよけんかせん存らんて、どういふちゅうたら「ほん存らん上の岩右衛門さんの家へ行つて、助太刀を頼んでこい」ちゅうこに存あ。クモがせいで(それで)人間に化けて、へて、その家い庭ざり(庭の薫味)打つ存あ。ほいで、「二の下に住むわしはクモの主やで、せえやけど、明日の晩ナマズが攻めてくるこに存あ。その代わり、田んぼの水が掃いちゃうよう存こは絶対せんけかいに、ほんで明日はどうでも二のけんかに勝た存んたら、ナマズにはほしてもか存んけかいに、ほんで、助けてくれえ」ちゅうて、田に

水をやるちゅうこに、せえらいえの岩右衛門さんけうれしかつて存あ、「ほん存らん、どうして助太刀する」ちゅうたら存あ、「何もいってもういでもよいけかいに、ほんでドデンドデンド音がしたと、もうけんかしとるけかいに、「しっかりせえ、大クモしっかりせえ、二に岩右衛門が控えてるぞ」と、かほ口いってもうちゅうたらよいけかいに、ほんでけいってくれえ」といって、「ほん存らん、もうこれいってやるけかい」といって存あ。そして、「自分はこの田へ行(井手やけかい、ほんで岩右衛門さん、明日の晩上、丑の初(午前二時ごろ)に来てくれえ」「ほん存らん行くけかい」話して頼んで戻つて、存あ、岩右衛門さん明くる日仕事も何にも手につかへんやけど、今夜行かん存んてけかい、ほえから晩に存あ。ふう寝んじとたら(寝存いどいたら)丑の初時分に存あ、せえらい音がして、水がドンドン、ドンドン音がして、バジャバジャバジャバ戦争が始まる、たん。ナマズヒクモの大けんかが始まる、存あ。ほいから揃いやけど行か存んや存いど、後の三三三右衛門もんじゃけかい、ナマズの方は勝つてもうつとつ、ずつと下のやけかい、自分とこに關係存いやけど、クモに負けてもうたんでは、自分とこの田へ水がせんもんやで、そこへ、存あ助太刀に行つて、せえから、揃うてか存んやけど、いっばい声で、家の中庭れうて、戸を叩いて存あ、「二に岩右衛門控えてあるぞ、しっかりせえ」といって、存あ声の助太刀したんやもう存、岩右衛門さん。存あもん存にしと、ドアンパタン(と、そいて終つて、存んが獲か明けた、存あ。けんかが終つて、ほしたら、大生存大生存ナマズが、どてんと腹あてて深いとこに走んじとつた。ほいで、その井手をせいで、千バツの年でも、そのクモのかかけで岩右衛門さん一代は、どつからや知らんが、岩右衛門さんの田をけけ水があつていって存あ。

ちゅうて話。もんけい。  
語り手… 磯まつ 京都府船井郡和知町大迫 球摩者… 稲田浩二 京都女子大教授  
毎日新聞 1976年5月30日  
日曜くらぶ 51 (スーパースター)

(前ページよりつづき)

不気味な刀モとすんぐりむ、りのナマズのパンカと聞いでも、想像するのは難しい。たに、バツバツと音を立て争う闘いが、すさまじいものであったことは間違いない。この庄が死かをかけた闘う水の主の争いのすさまじさは、川がえれば、水を求める人々の争いであり、水なくしては住せられない人々の死活問題であったことによる。

刀モは「田んぼの水が干ちゅうようになるとは絶対せん」と岩右衛門に助太刀の条件を出している。兎うしさにふるえながら、二一番、声の助太刀にふんぞりも、自分の田に水を引きたらめびあ。岩右衛門が兎い男でなく、おどおどとふるえる声で「うう」ところは、この暗闘争闘(ん)を明るくしている。ナマズに勝った後、刀モは約束どおり千バツの耳でも岩右衛門の田に水を入れる。これは、足に糸を巻きつけて人間を水中に引き込もうとする「賢淵」の話でもわかるように、刀モが水を司る神であったことによる。

東北の仙台では、刀モとウナギの話になっている。刀モがウナギを攻め、ウナギは源兵衛に声の助太刀を頼みに行く。ところが、源兵衛は約束を守らな。ウナギは敗れ、源兵衛も気が狂って死んでしまふ — となっている。こうみると、刀モのけんかの話は伝説や民間話に近い昔話といえる。

(大島 広志)



刀モとナマズのけんかは

方言そのまま「読みにくいかも知れませんが」

和歌山 京都 大阪 奈良 兵庫 徳島 香取 茨城 千葉 埼玉 群馬 栃木 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 茨城 香取 徳島 兵庫 奈良 京都 和歌山



(紹介者: 熊田憲一)

KISHIDAIA No. 41

原稿急募

11月末日までのつくり

先日、談話会の中で「比較的初心者の部類にはいると思われる人産」だけの会、土日会というものをつくり、菅嶋先生のお宅で第1回集会を開きました。その時、私目が見て参りました新聞記事を菅嶋先生におみせいたしましたところ、大変不思議がられておりました。それは...

東京新聞、昭和60年7月10日(木曜日)

(9)面 話のすなック というところ

...ネズミ捕り、クモ...

ネコがネズミを捕るのは昔り前のことだが、これはクモがネズミを捕った話 —。

七月初め、大分県宇佐市川部地区、市職員 I さん(28)宅で、部屋のスミに置いたミシンの横に大きなクモの巣。よく見ると、巣にかかっているのはネズミ。長い足をからませてノドもヒにクモが食いついていた。クモは、胴の直径が1.5センチ、足を広げると10センチもある大クモ。近くのクモ研究家によると「これは足高クモでしょう。ネズミを捕ったのは日本で初めてでしょう」ということだ(西日本新聞)

この新聞記事を読まれた菅嶋先生の御意見は「こういう話を聞くのは初めてだ。クモ研究家なら足高クモが巣を造らないのは、知っているはずだ。」とのことでした。なお、こういう記事はめずらしいから談話会通信に出しておきたいと菅嶋先生に言われた。ペンを送らせました。

貞元己良大のお手紙より

いそがしい社会のほろいもの?と?

KISHIDAIA No. 41の原稿。

KISHIDAIA No. 41を生かす費用。

KISHIDAIAを広くつくりたい。

KISHIDAIAを普及してつくりたい。

KISHIDAIAの記事はつくりたい。

(その他、1977年7月7日、とくにうたにみせ)

10月3日全く突然にドイツへ行かされた小野展嗣氏より、便りがありました。支障のない部分を断絶で掲載します。

「前略 — 10月3日に日本をたち、モスクワ経由で無事フランクフルト空港に着きました。モスクワは気温4°Cととて薄っぺらく寒く外に出たときはふるえ上りましたが、ここメインツは、日本とはほぼ同じぐらいの気候です。ただ緯度からは、樺太と同じぐらいでしょうが。着いたから4、5日は恭子のドイツ語の先生から紹介してもらったドイツ人の家に居続けし、その人 Prof. Martens に助けをもらって家まがしや入学の手続やらに走り回りました。ようやく郊外（といえどバスで町中まで15分）のアパートの一室を借りて住み始めました。緑が多く良い環境のところにあります。物価も日本とはほとんど同様か、少し高いくらいですが、やはり不自由はありません。食べ物が違ふのと、水が硬いので飲めないので閉口しています。大学のほうは、1学期間ドイツ語を習うことになりました。こちらの授業は講義と、セミナーと実習の3つに分れています。国際色豊かです。日本人もけっこう多いようです。メインツの町は小じんまりとまとまった感じの町です（しかし中心部は銀座並み）。馬車からバスまで5分も行かないところにメインツ大学（Johannes Gutenberg Universität）があります。大学は比較的広い総合大学で自然科学から文学まで様々な学科があります。生物の關係からは植物学科が大まか、り、は、な植物園をわけています。動物学科はたいてい小まか、きわり五鉄筋のビルにかまかれた中にはボツンと小さく建てられています。おそらく不造の建物はこれだけではないでしょう。こちらの町も

は、また採集していませんが、情報たくさんあります。家の中を何だかよくわからないハエトリグモが歩きまわっています。いずれ採集して、名をつけてお知らせします。

とりいそぎ「教」を報告する。」

小野展嗣氏の住所は次の通りです。

M2-LERCHENBERG,  
RUBENSALLEE 42,  
65 MAINZ,  
BUNDESREPUBLIK  
DEUTSCHLAND

自然保護・自然教育・自然保護教育について、理論的にも、実践的にも着実に活動している「自然観察会」というのがあります。そのパンフレット No. 42 (1976. 10. 3) に、佐藤幸子氏が「70の巻」を連載しはじめられました。その一は「アトリとアトリグモ」です。約1頁にわたる内容です。大意、たのしく読んでおいていただきました。実際は観察されたことであるので、興味深い内容です。

2-3ページのような雑誌会通信への記事をお勧めします。オリエント体裁が書まじつてきて下ると大変、助かります。

厚紙は、もし、書まじつてくるとしたら、70の巻の「コトコトの目録」1mm目、上質紙、70g/m<sup>2</sup>、50枚、ホ-19」というのは、70のインクを使つて下れば結構です。紙面の大きさは、9cm x 21cm x 30cm に入れれば、その子、印刷機にかかけられます。

熊田氏曰、このおらな、  
 インクの壺と箱をもらいまし  
 たので紹介します。  
 Black Indian Inkの  
 デザインは、このおらなと  
 他の色のものは、もっとかわ  
 いらしかたなり、きれいだ  
 たりするようである。



INKS MAY BE MIXED WITH  
 EACH OTHER OR THINNED  
 WITH DISTILLED WATER.  
 ALL EXCEPT WHITE ARE  
 SUITABLE FOR USE IN A  
 STYLUS PEN

BLACK INDIAN INK  
 951

WINSOR & NEWTON  
 INK

CONTAINS SHELLAC  
 WASH PENS & BRUSHES  
 IMMEDIATELY AFTER USE  
 KEEP FROM FREEZING  
 1/2 FL OZ 14 CC


BLACK INDIAN INK  
 951


組み立て方:


- ① コーヒー缶の（フタの  
 ところからめいばらさか  
 ら）。
- ② リンカフをきり取る。
- ③ 角がとれ（箱はまるお  
 ら）に、おろす。
- ④ ノリシロにノリをつけ  
 （とれぬ）リカフを  
 はりつける。
- ⑤ 底とフタをくっつける。

もっとかたくなには、（コーヒー缶のフタを）中味入りのきま、つくるこ  
 と。

「KISHIDAIA」の中の□の中には文字が入り、  
 一つの□の中をトナリ順に動かして  
 一つの言葉を作して下さい。ヒントは  
 1回1つあります。

1.  健康が活発な  
 こと。

2.  Arachnida

3.  見た目が  
 つばねのよう  
 ちや

4.  いっぱい  
 いること。

答のわかる方は、答のことに参加  
 ことができます。  
 わからなかつた方は、KISHIDAIAへの原稿を  
 書くほうに努力して下さい。宜しく。

ちよと遊んでみました。夫礼。  
 とはいえ、全国にいる会員のうち本会  
 へ参加されることといえは、KISHIDAIA  
 への投稿くらゐのものと思ひます。また、  
 せがく No.40までつづいた会誌を先  
 組にはおさせなかつたのです。

私個人としては、KISHIDAIAを通じて  
 ？、会員相互に Discuss してあげて理  
 想的と存じています。そういう意味では、  
 以前の KISHIDAIA の内容について、  
 再検討された感想などが掲載  
 されるとおぼやかと思ひています。句論  
 Acta, A Typus などはあるしといつた  
 のは、( ) 附載することの意味あるの  
 と思ひます。結局は、よく考えれば  
 2つと2つ、行つくと3つは同じ場所  
 というところからして、どの様な内容  
 のものをのせていくというところの  
 問題か？ 77年、78年と2年連続  
 して Discussion の場という2つは  
 ？、整理継続、発展させたい  
 と思ひます。いかがでしょうか？

新編集委員会は CHSOLUTION の  
 ... 実行員数は  
 同じにして、その方が会員の ( 経 )  
 円々にはよい方向と思ひます。

。新編集委員会は、専らに不慣れか  
 と思ひますので、原稿の情者、因版  
 の体裁などはよくととのえて、協力  
 してあげて下さい。投稿者の方へ  
 おねがひいたします。

。会費外の消息で、恐縮ですが、  
 種利利夫先生は、今年度の歌山県  
 の文化功勞者に選らば ( 和 ) れ、功  
 受賞のため、11月初め、郷里へおさら  
 れました。なお先生はお元氣で、研究  
 されておられます。

。八木信先生が今年60才になられ  
 たのは、もうお存じの方多いと思ひ  
 ます。リッパな還暦記念号が出版され  
 予定です。

。オスカの地上絵の7色の絵互利に入れ  
 した(雑誌での)2次図(1月発行予定)に  
 掲載したいと思ひます。

。12月には3会同例会がありますので、  
 また「よいお年玉をお迎えて下さい」とい  
 うのは早いほうですが、皆林口は健康で  
 お過ごし下さい。

**東京歌珠談話会**

191 東京都目黒区青丘1-18-2  
 聖徳 泉 芳  
 phone: 0425-81-7128

会誌 KISHIDAIA No.41 原稿募集  
 会費 '76年 1000円、'77年 1500円  
 KISHIDAIA No.271 入付可能。  
 (271年) 適時印刷予定)

(連絡先: 聖徳 泉 芳)

1975.11.6

東京蹴球談話会

入会

吉川伊智郎氏 226 横浜市緑区寺山町570  
(氏は10月10日八柱聖園の観望採集会へ、貞元氏と一緒に参加されました。)

内田善晴氏 959-02 西蒲原郡吉田町大字栗生津129  
(氏は東亜蹴球学会の会員でもあります。)

訂正

通信No.14. 1p. の八柱聖園・観望採集会の参加者には誤植がありました。以下の様には訂正願います。

吉田 → 吉川伊智郎  
貞元 → 貞元己良

上記お二方は、お詫を申し上げます。

お知らせ

三会合同例会の日取りが決まりました。

12月26日(日) 目黒区立大橋区民会会館  
いつもの通り10時より開始する予定にしております。  
昼食は各自で心配下さい。  
借入料が倍になりましたので、会費少々高くなることと存じます。  
今回の世話人は、多足類懇談会の高野光男氏です。

その他

小野居嗣氏からは、お2信、高橋米夫氏からは、観望採集会参加の感想が寄せられています。来年1号(No.15)にて紹介します。KISHIDAIA. 通信共は情報誌、まっていますので、よろしくご協力下さい。  
(以上、松平)